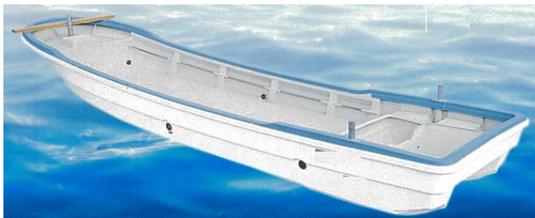


船舶事故調査報告書

令和6年4月24日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	転覆
発生日時	令和4年12月29日 14時30分ごろ
発生場所	関門港小倉区 小倉日明防潮堤灯台から真方位305°460m付近 (概位 北緯33°54.6′ 東経130°53.0′)
事故の概要	漁船とよ丸は、航行中、転覆した。
事故調査の経過	令和5年1月30日、主管調査官（門司事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	漁船 とよ丸、0.3トン
船舶番号、船舶所有者等	F03-33865（漁船登録番号）、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	なし
損傷	船外機に濡損
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北西、風力 4、視界 良好 海象：波高 約1m、潮汐 上げ潮の末期、潮流 北西流約2～3ノット
事故の経過	<p>本船は、和船型の船外機船で、船長が1人で乗り組み、北九州市小倉北区平松漁港を出航し、同漁港北西方沖で錨泊して素潜り漁を行っていたところ、天候が悪化して白波が立ち始めたので、帰航することとした。（図1参照）</p>  <p>図1 本船の類似船</p> <p>船長は、船尾に座って船外機を操作し、甲板に打ち込む海水をバケツで排水しながら航行していたところ、波高約1mの波を船首方から受け、甲板に大量の海水が流入して滞留し、本船は右舷側に転覆した。</p> <p>船長は、付近を航行中の漁船に救助されて平松漁港に戻り、また、本船は、僚船により同漁港にえい航された。</p> <p>船長は、出航時、天候が良かったので出漁し、素潜り漁に集中して天候の悪化に気付くの遅れたが、周囲の状況に注意し、天候が悪</p>

	<p>化する前に早めに帰航すれば良かったと本事故後に思った。</p> <p>船長は、救命胴衣を着用していた。</p>
分析	<p>本船は、帰航中、波高約1mの波を船首方から受け、甲板に大量の海水が流入して滞留したことから、右舷側に傾いて転覆したものと考えられる。</p> <p>船長は、出航前に正確な気象情報を入手しておらず、素潜り漁に集中していたことから、天候の悪化に気付くのが遅れたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、帰航中、波高約1mの波を船首方から受け、甲板に大量の海水が流入して滞留したため、右舷側に傾いて転覆したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 舷縁の低い小型船舶の船長は、波の影響を受けやすいので、可能な限り正確な気象情報を入手し、気象、海象及び船舶の構造等を考慮して出航の可否を慎重に判断すること。 ・ 漁船の船長は、気象及び海象の変化に注意して操業を行い、天候が悪化する前に早めに帰航すること。